

外科

マンスリーレター 2018.06

こんにちは。市立大津市民病院 外科 岡部あさみ と申します。今月の外科マンスリーレターは私が担当させていただきます。去年より当院へ赴任いたし、今年から専攻医課程を修了し、医員となることになりました。環境としては変わりませんが、昨年よりもより一層気を引き締め、患者様や御家族様から”話しやすく頼ってもらえる医師”を目指して奮闘させていただきます。病棟でも外来でもお気軽に声を掛けていただければ幸いです。

さて、今回のテーマは・・・医師ってどんなキャリアで、外科ってどんな仕事をしているの？ ということについて紹介させていただきたいと思います。

6年過程である医学部医学科課程を修了します。学生の間は、通常の大学生と同じように、勉強はもちろんのこと、アルバイトや部活動に励みます。普通の学科と違うことは、大学にもよるのですが、「サークル活動」より「部活動」が盛んであることでしょうか。大学によってカリキュラムは違いますが、はじめの1年は一般教養、専門課程は第2学年から始まるところが多いように思います。

第5-6学年より病院での臨床実習が始まるとともに、医師の就職活動として「マッチング」への準備を開始します。マッチングとは、卒業後に「初期研修医」として2年間の研修を行うための病院を探し、医師個人と病院側双方向の希望を踏まえ研修病院を決定するシステムです。医師は希望する病院を複数ピックアップし、希望を提出するとともに病院それぞれで規定されている試験を受験します。病院側は履歴や試験の結果を踏まえ、その病院を希望している医師の中から採用者を選択します。

最高学年である第6学年で医師国家試験を受験します。合格すれば晴れて、医師国家資格を得て、マッチングで決定した研修病院で初期研修医としての生活が始まります。初期研修医では、2年間をかけてさまざまな科をまわり幅広い医療の知識と経験を得ます。その中で自分が将来希望する科を見つけ、志望を決めます。もともと学生時代から変わらない意志で進路を決めている方もいますが、研修医中に思ってもみなかった科に興味を持って、最後の最後で進路変更した、という方もいます。ちなみに私は、学生時代は外科なんて全く志望として考えておりませんでした。臨床実習中に出会ったある先生のお話を聞いて、「小児外科」に惹かれたことがきっかけでした。

2年の初期研修課程が終了した後は各々の志望する専門課程の道へと進みます。外科では後期研修医として3年間の期間が設けられています。消化器・乳腺・心臓・呼吸器・一般外科医師は皆、「外科専門医」を取得するため様々な手術症例を経験したり、学科発表や論文の執筆等を行います。

さて、「外科専門医」を取得した後も、まだまだ資格がたくさんあります。「消化器外科専門医」「乳腺外科専門医」「内視鏡外科認定医」など・・・医師も資格の時代になっています。専門の資格になればなるほど経験や実績が必要とされます。

臨床医(実際に病院や医療の現場で働く医師)としての道の他にも、研究の道もあります。大学院へと進学して、博士号を取得することもあります。最低4年間の研究の後、また臨床医として戻る方もいれば、そのまま研究生活に入る方もいます。

どの科でももちろん生涯勉強の毎日ですが、外科のやりがいといえばやはり、手術した患者様がお元気になって笑顔を見せてくださること、これにつきます。患者様からのお言葉に一喜一憂する毎日です。

さて、毎日の外科医師の仕事ですが、大きく分けると「外来業務」「病棟業務」「手術業務」「緊急対応業務」に分けられます。外来では、外科疾患が疑われる患者様の診察や手術後の患者様の経過観察を行います。病棟では、外科に入院している患者様(手術前、手術後、その他)の診察や治療を行います。手術は数人で担当し、日によっては自分が担当する手術がない場合もあります。市立大津市民病院の手術日は、基本的には水曜日以外となっています。長い手術の時は朝から夕方まで手術室に缶詰、という日もあります。また、予定手術や日常業務の他、緊急で外科的対応が必要な患者様がいらした場合には、必要に応じて時間を問わず緊急手術を行う場合もあります。

長くなってしまいましたが、なんとなく、外科医師たちの生活についてイメージできましたでしょうか。皆様に興味を持っていただくきっかけとなれば幸いです。もし、「聞いたことがあるんだけど、これって手術いるのかな」なんて思うことがあればいつでも外科外来にいらして下さい。お待ちしております。

